

**①** 蕎麦蔵

明治から大正にかけて米屋を営んだ岡田家の米蔵として明治22年に建築された土蔵。建築当時は函館に材木がなかったため、青森から青森ヒバを運んで建てた蔵で、内部は当時のままの梁などが見られる。

**②** gallery・cafe三日月

明治30年頃に建築され、質蔵として利用されていた土蔵。内部は漆喰壁で、ほぼ当時の面影を残しギャラリーとして活用している。土蔵は、大正時代に建築された母屋につながっており、ここは土蔵の棚板を再利用したカウンターなどがあるカフェとして営業している。

**③** 函館元町ホテル

海運業だった桂久蔵邸の付属土蔵として明治42年に建築され、本邸とともに「桂御殿」と呼ばれた。現在は函館元町ホテル別館の蔵宿「屯所の庵」として活用され訪れる観光客から好評を得ている。

**④** 旧相馬邸の土蔵

明治40(1907)年の大火をくぐり抜けた旧相馬邸左側にある土蔵。内部はギャラリーとして利用され、1階には250~260年前に蝦夷に住んだ倭人の風俗を知る数少ない資料である児玉貞良作「江差屏風」のほか、松浦武四郎の「丁巳日誌」23巻目の原書など貴重な資料を展示している。2階は箱館戦争の錦絵を中心としたギャラリー。

**⑤** 市立函館博物館  
郷土資料館(旧金森洋物店)

輸入品販売の金森洋物店として明治13年に建築された白漆喰塗り煉瓦造りの耐火建築物。現在は市立函館博物館郷土資料室として利用されている。

**⑥** 箱館高田屋嘉兵衛資料館の蔵

明治36年に建築された1号館は石造りで、大正12年に建築された2号館は鉄筋コンクリート造りの蔵で昆布倉庫として利用していた。現在は箱館高田屋嘉兵衛資料館として開放している。ミシュラングリーンガイド・ジャポンで一つ星として紹介された蔵。

**⑦** 紫せん

明治末期に呉服商の反物倉庫として建築された木骨2階建の土蔵。現在はレストランとして利用されている。

**⑧** BAR hanabi

石造りの内部とモルタルや漆喰塗りの外壁をもつ蔵は、大正7年に建てられた国松酒店の蔵。蔵の入り口や内部は店主自らが改装し、蔵の構造も一部見ることができる。現在はBARとして活用され、地元客に愛されている。

**⑨** 茶房ひし伊

旧入村質店の蔵として、明治38年建築の土蔵の他に大正10年に建て増された石蔵がある。三度の大火をくぐり抜けた函館では珍しい「江戸黒」の蔵で、現在は喫茶店・着物アンティークのお店として活用されている。

## 再生した「蔵」めぐり ~いまに息づく古き佳きもの~

所要時間 90分 距離 3.5km 消費カロリー 191kcal ※消費カロリーはおおよその目安です。

スタート!	函館どつく前電停	385m	1	50m	2	520m	3	542m	4	282m	5	530m	6	220m	7	630m	8	300m	9	ゴール!!
		7分	1分	9分	10分	5分	9分	4分	11分	6分	11分	9分	4分	11分	6分	11分	6分	11分		

函館駅前から2.7km  
市電 / 11分  
徒歩 / 45分

